

図書館だより

57

①堀勝洋著『年金の誤解』東洋経済新報社 (xvii+204頁,B6判)

いまや年金は、老後の生活に不可欠な経済的支えとなっている。そのため、年金制度の将来は、小手先の議論ではなく、正統的なものが要求される。著者は、著名な年金専門家の論と実にまともに切り結び、国民の年金に関する共通認識の形成に多大な貢献をしている。一刀両断にされた諸氏の生産的な反論が期待される。

②堀江孝司著『現代政治と女性政策』勁草書房 (viii+437頁,A5判)

主に80年代に制定・施行された、女性をめぐる派遣や均等法等の政策をとりあげ、一般紙を含む膨大な資料を渉猟、柔軟化、平等、再生産の3つのキーワードを駆使して分析している。労働集約的作業を苦にしない、若々しい潔さがある論文集である。分析のより一層の進展が期待される。

③中村圭介他編『衰退か再生か：労働組合活性化への道』勁草書房 (viii+244頁,A5判)

かつて、労働問題＝労使関係問題、春闘がトップ・ニュースを飾った、時代があった。しかし、現在労働組合の影は薄い。これは、組合組織率の傾向的低下の故ばかりではないであろう。既成概念にとらわれない、労組の目的からの見直しが必要である。労使関係専門研究者による本書の分析を見直しの契機とすべきである。

④三浦れいこ・澤木明著『定年前』朝日新聞社 (259頁,A5判)

定年後を生きがいをもって過ごすためには、言われてみれば至極当然なのだが、無事定年に達することが条件である。「天命」を知った後も災難は足元を狙っているからである。本書には、多様な危機を乗り切る手立てが懇切・丁寧に示されている。老後悩まないためには周到な準備が必要なのである。

⑤上野千鶴子著『老いる準備』学陽書房 (278頁,B6判)

介護保険の導入によって、介護される者にとっても、また介護者にとっても老後問題は大きく変わった。しかし、介護によって最低限の生存が保障されたとしても、人生最終局面での風景は、玄冬模様でしかないのだろうか。峠を越し、下り坂にあると自認する著者には老後がどのように見えているか、赤裸々に語られている。

⑥涌井美和子他著『社員を大事にする会社のメンタルヘルス』大成出版社 (171頁,A5判)

ストレスの増加に伴い、労働者の健康状況は悪化の一途を辿っているように見える。勿論、主に個人に問題がある場合もあるが、人事労務担当者、産業保健スタッフ等、企業側の対策は重要性を増している。どのような対策が必要とされているか、心の健康に関する基礎知識とともに、経営者、管理職、社員毎に示されている。

⑦東條由紀彦著『近代・労働・市民社会』ミネルヴァ書房 (ix+454頁,A5判)

⑧岩田正美・西澤晃彦編著『貧困と社会的排除』ミネルヴァ書房 (vii+323頁,A5判)

⑨井上克樹著『労働条件変更の判断基準』新日本法規出版 (xvi+403頁,A5判)

⑩京都府保険医協会他編『京都の介護現場から提言する』かもがわ出版 (151頁,A5判)

⑪立石宏昭著『社会福祉調査のすすめ』ミネルヴァ書房 (viii+176頁,A5判)

⑫山口史朗編著『経営行動の管理研究』同文館出版 (xvi+328頁,A5判)

⑬中田照子編著『国際比較 働く父母の生活時間』御茶の水書房 (ix+278頁,A5判)

⑭晴山俊雄著『日本賃金管理史』文眞堂 (ix+340頁,A5判)

⑮大津定美著『北東アジアにおける国際労働移動と地域経済開発』ミネルヴァ書房 (xviii+419頁,A5判)

⑯中小企業研究センター編『働きやすい、辞められない!』同友館 (viii+311頁,A5判)

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

今月の耳より情報

日本他多くの国では、個人、

法人の思想、感情を創作的に表現したもの(著作物)は、その誕生の瞬間から、著作権法により保護されています。勿論、図書・雑誌所収の著作物(論文、記事等)についても同様です。しかし、日本の著作権法は、著作者の権利を保護するとともに、文化の発展に寄与することも目的としており、教養、調査研究、レクリエーション等のための機関である図書館(図書館法二条)は、法定の条件を満たせば、多くの権利で構成される著作権の中でもその根幹をなす「複製権」を利用することが出来ます。営利を目的にしなければ、来館者に対するコピーサービス等が可能なのです。当館でも、貸出を行っていない資料等についてコピーサービスを実施してきました(長年、一枚一〇円)。しかし、毎年実施している「来館者アンケート」のサービス内容等についての自由記入欄で、コピー料金の値下げを求める要望を重ねていただいていたため、他の図書館の状況も確認し、労働に関する調査研究発展の一助となることを期待して、この四月一日から、一枚一〇円に改訂しました。より一層のご利用をお待ちいたします。なお、皆様のご意見・ご要望を日常的にお伺いするため閲覧室にご意見箱「みん

な声」を設置しました。ご利用になられた忌憚のない声をお聞かせください。

図書館長のつぶやき

インドの図書館学者ランガタンの「図書館学の五法則」(一九三二年発表)は、「図書館の真髄」と言われるものであるが、現在でもその輝きは失せてはいない。「第一法則」は「本は利用するためのものである」「第二法則」は「本はすべての人のためにある」「第三法則」は「どの本にも読者がいる」「第四法則」は「読者の時間を節約せよ」「第五法則」は「図書館は成長する有機体である」というものである。①図書館は文書館ではないので、図書は利用されてこそその目的が達成されるし、②中世ではないので、本は貴族の奢侈品ではなくすべての人のためにあり、③どの本も利用されるために出版されるのでわかりやすい配架を心がけねばならず、④来館者が限られた時間を有効に使うために、来館者等の調べもの、探しものに積極的に協力し、⑤情報通信技術の発展等も有効に利用して、より使いやすい図書館に成長し続けなければならない。この五法則を当館のモットーとしたいと考えているが、「言うは易し行うは難し」である。しかし、「図書館の真髄」に近づくべく、努力を積み重ねていきたい。

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これで、蔵書の半数以上を占めています。この他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(450種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他
電話番号:03(5991)5032/FAX:03(5991)5659

利用資格:閲覧はどなたでも自由にできます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています

ご案内 労働図書館(資料センター)

特色として、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。